

導入事例

先進的なディスプレイ環境が支えるこれからの時代の学び



ノートルダム清心女子大学 様

アメリカ、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちが岡山の地を訪れ、清心高等女学校の経営を引き継いでから2024年で100年。その節目の年を記念して建設されたノートルダム清心女子大学新学棟「トリニティホール」に、「ディープブラック・ノングレアカーティング」によって映り込みを抑えたBZ40シリーズを中心とした全44台の法人向けブラビアが導入されました。その狙いや目的、導入した効果について、新学棟建設プロジェクトを主導した中核メンバーの皆さんに伺います。

■導入の目的

1. 時代に応じて変わりゆく学びのかたちに対応できる施設にしたい
2. どここの席からでも見えるよう外光の映り込みを抑えたい
3. 学生が設備を主体的に自由に利用できるようにしたい

■法人向けブラビアで実現！

1. 98V型から55V型まで用途に合わせたサイズで学びをサポート
2. ディープブラック・ノングレアカーティングで映り込みを劇的に低減
3. 一部教室ではProモードによるリモコンレス化を実現

「トリニティホール」は学生たちの主体的な学びをうながす場

— まずは、このトリニティホールについて、改めてその概要をご紹介します。

福原氏：ノートルダム清心女子大学トリニティホールは、シスター来日100周年となる2024年の記念事業として「学生一人ひとりの潜在能力を引き出す教育の実践と、多様な学びを支える学習環境整備の実現」を掲げ建設した7階建ての新学棟です。情報化に対応した新しい設備を積極的に取り入れたほか、学生が主体となって利用するスペースを増やすなど、これまでにない挑戦を数多く行っています。

宮川氏：トリニティホールの設計に際し、これからの時代の教育施設がどうあるべきかを徹底的に議論しました。今や、オンライン授業やハイブリッド授業が当たり前ものになりましたが、現在はこれまでの対面授業が中心です。今後、時代に応じて変わりゆく学びのかたちに柔軟に対応できるように施設にしたいという思いが、まずありました。

福原氏：また、本学がかねてより掲げているリベラル・アーツ教育、実用的な目的から離れた純粋な教養をさらに推し進めるような施設であることにもこだわりました。学生たちが本学での学びを通して自分の中のさまざまな可能性を見出し、現実社会でどのように生きていくのかに結びつけていけるような環境を提供したかったのです。そのため、トリニティホールでは何より学生たちの主体性を重視し、通常の講義だけでなく、グループワークやイベントなど、何でもできるような空間作りを徹底しています。その中で講義を行う教室や、エントランスホールにて業務用ディスプレイが必要になり今回、多くの法人向けブラビアを導入させていただくことになりました。



トリニティホール



ノートルダム清心女子大学 総務部 次長 居森 義拓様 (中央)、施設企画管理部 次長 福原 英二様 (右)、情報教育支援センター 係長 宮川 佳夫様 (左)

宮川氏：なお、今回のプロジェクトでは導入するディスプレイの要件として、学生がどここの席から見ても平等に見えるよう、外光や照明などの「映り込みが少ない」ことを重視。導入業者から「ディープブラック・ノングレアカーティング」で映り込みを抑えた法人向けブラビア「BZ40シリーズ」を推薦され、このシリーズを中心に計44台を各階に設置しています。

全ての学生とのコミュニケーションに法人向けブラビアが活躍

—— トリニティホールに入っすぐのラウンジには、65V 型の『FW-65BZ40L』を外向きに 6 台、内向きに 6 台、計 12 台を天井で配置しています。これはこういった用途にお使いなのでしょう？

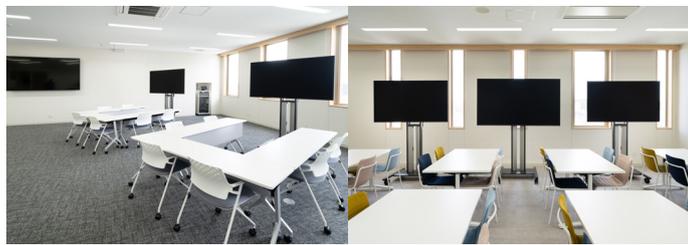
福原氏：トリニティホールの 2 階には学務部が入っており、当初から学生向けの掲示板をデジタルサイネージ化しようという計画がありました。ただ、それを 2 階に設置してしまうと、2,000 人以上いる学生が毎日、ホールの 2 階まで上がってこなければならず大変な混雑を招きかねません。そこで、1 階ラウンジに業務用ディスプレイを配置しつつ、ホール内に入らなくてもガラス越しに外からも見られるような 2 面構成にすることで混雑を回避しようと考えました。



1 階ラウンジ。計 12 台の 65V 型ディスプレイ (FW-65BZ40L) を背中合わせに配置し、中からも外からも大学からの連絡事項を確認できるようにしている。

居森氏：その上で今後は特別な使い方として、ホール内で行っているイベントの様子をそのまま中継したり、大学祭や入学説明会などのイベント時に広報的な動画を流したりといった使い方も想定しています。5 月の「キャップ・アンド・ガウン授与式」から始まり、3 月の「ノートルダムデー」「フード授与式」「卒業証書・学位記授与式」などの卒業関連行事が多い大学ですから、お越しいただいた方にこのディスプレイを通じて、いろいろなことをお知らせできるのではないかな、と。

映り込みの少ない法人向けブラビアはどこに移動させても見やすさを損なわない



7 階演習室 (左)、7 階デザインラボ (右)。キャスター付きディスプレイとデスクを自由に移動し、さまざまな学びに対応できるようにしている。

数チームに分けたグループワークでの利用など、さまざまな用途で自由に配置して使えるようにしています。この際、どこに移動させても外光や照明の映り込みが少ない法人向けブラビア (BZ40L シリーズ) は良い選択肢でした。

—— それぞれの教室にもたくさんの法人向けブラビアをご導入いただきました。こちらについてはいかがでしょうか？

宮川氏：ホールの 3～7 階にはたくさんのタイプ、大きさの教室があります。特に、今年から新設された情報デザイン学部専用となる 7 階の教室にはさまざまな工夫を施しました。中でも象徴的なのが、約 50 名の学生を収容できる演習室とデザインラボに設置された計 6 台のキャスター付き 65V 型ディスプレイ (FW-75BZ40L×2 台、FW-65BZ40L×4 台) です。演習室の正面中央に壁掛け配置された 98V 型『FW-98BZ50L』のサブディスプレイとしての活用に加え、学生を複

学生たちによる思いもよらない活用拡大に期待

—— 今回、ホール内の各教室のほか、6 階「ラーニングcommons」と名付けられた自習スペースのうち、グループワーク用の 5 部屋にも、それぞれ 1 台ずつ 55V 型『FW-55BZ40L』が設置されています。この機種選定にこういった狙いがあったのかも教えてください。

居森氏：グループワークをする以上、全員で共有できるディスプレイは必須です。この際、他の教室と同じく映り込みの少なさを重視しつつ、部屋のサイズから 55V 型程度が適切であろうと考えて『FW-55BZ40L』にしました。なお、この部屋ならではの工夫として、あえて各部屋にディスプレイのリモコンを置かず、学生が HDMI ケーブルを PC にさせば電源が入り、抜けばスタンバイになるようにしています。これは、法人向けブラビアの Pro モードを用いて実現しています。

福原氏：まだ、開設から 1 か月も経っていないので (取材は 2024 年 4 月に実施)、その導入効果は未知数なのですが、映り込みの少なさを始め、その表示性能には十分な手応えを感じています。ぜひ、学生の皆さんには私たちが思いもつかなかったような使い方をしてほしいですね。



6 階ラーニングcommons (左)、6 階自習室 (右)

法人向けブラビアについて 詳しくは、当社 Web (sony.jp/bravia-biz/) へ

ご購入に関する相談は
法人のお客様向け購入相談デスク

☎ 0120-30-1260

- 携帯電話・一部の IP 電話などでご利用になれない場合がございます。
- 受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日 休み)

ソニーマーケティング株式会社

商品情報や仕様のお問い合わせは
ブラビア法人様向け相談窓口

☎ 0120-67-6699

- 携帯電話・一部の IP 電話などでご利用になれない場合。050-3754-9774
- 受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日 休み)

お問い合わせ

2024年5月現在